

保育現場でのDXの推進

こどもまんなか
こども家庭庁

保育所等におけるICT化推進等事業の拡充 (令和6年度 概算要求事項)

- 保育士等の業務負担軽減を図るため、保育の周辺業務や補助業務（①保育に関する計画・記録、②園児の登園・降園の管理、③保護者との連絡）に係る ICT等を活用した業務システムの導入費用の一部補助を実施している。
- ICT等を活用した業務システム導入費用の一部補助に係る補助対象について、新たに、実費徴収や延長保育の利用料徴収における、④キャッシュレス決済の導入を追加する。
- 加えて、自治体（都道府県・市区町村）において、自治体・ICT関連事業者・保育事業者等で構成される協議会を設置し、業務システム導入補助以外の取組を行っている場合に補助率を嵩上げを行う。
(国：1/2、市区町村：1/4、事業者：1/4 ⇒ 国：2/3、市区町村：1/12、事業者：1/4)
- 病児保育施設の利用予約やキャンセル等のICT化により、空き状況の見える化による利便性の向上や当日キャンセルの防止など適切な利用の促進が期待されることから、病児保育事業等の業務（予約・キャンセル等）のICT化を行うためのシステムの導入費用の一部補助を実施している。
- 更なる導入の促進を図るため、自治体の管内の病児保育施設の70%以上に予約システムを導入し、効率的な管理体制を構築している自治体について補助率の嵩上げを行う。
(国：1/2、市区町村：1/2 ⇒ 国：2/3、市区町村：1/3)

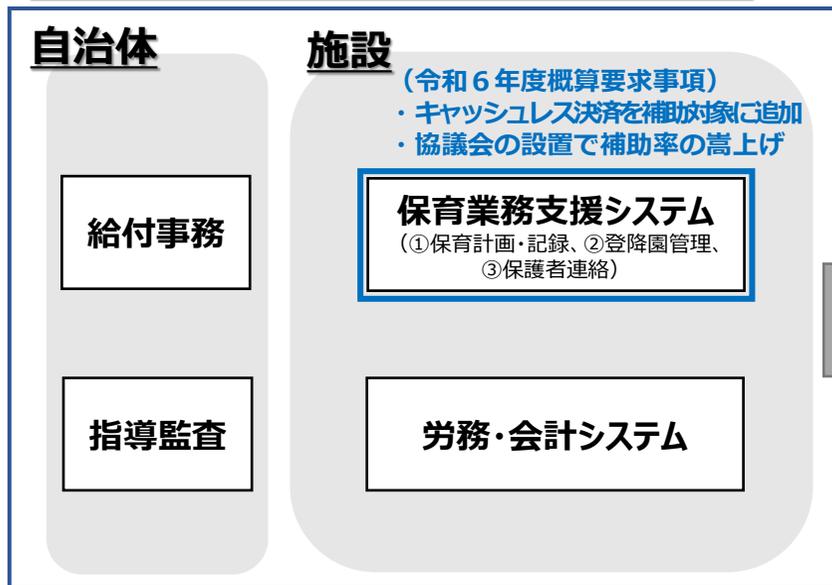
【小倉こども政策担当大臣挨拶】

- こども政策担当大臣の小倉将信です。本日は、昨年度から引き続き第4回目の開催となりましたが、有意義な議論を進めることができたと考えています。
本日、西条市から自治体におけるこどもDXの取組について御紹介いただきました。今後、より多くの自治体が西条市のように、こどもDXに取り組むことができるよう、自治体と緊密に連携しながら、本チームの取組を進めるようお願いいたします。
- また、こどもDX推進協会からは、ライフステージを通じた子育て支援情報をタイムリーに提供する取組に着手するとの御説明がありました。
子育て世帯等の経済的な不安感を軽減するため、子育てに関する支援メニューをライフステージを通じて見える化することは極めて重要な取組だと考えています。また、特にDXの分野においては、官民が連携して取り組んでいくことが必要です。
今後、具体的なサービスの内容や提供方法について詳細を詰めていくことになるかと思いますが、こども家庭庁や関係省庁と協会が緊密に連携しながら、取組を進めていくようお願いいたします。
(中略)
- 今回の議題にはありませんでしたが、このほか、**例えば、病児保育については、電話での予約受付が中心となっており、予約業務が煩雑になるとともに、利用者も予約が取りづらい状況があるとも伺っています。**
- **こうした病児保育を含む保育所、認定こども園といった保育現場でのICT活用を一層進め、利用者の利便性向上と保育士の業務負担軽減を図っていく方策についても、今後、議論するようお願いいたします。**
- 4月にこども家庭庁が始動しこども政策を一元的に推進する体制が整ったことから、今後はこの体制の下で、取組方針に示した取組をさらに迅速かつ強力に進めていきたいと考えていますので、改めてよろしく申し上げます。

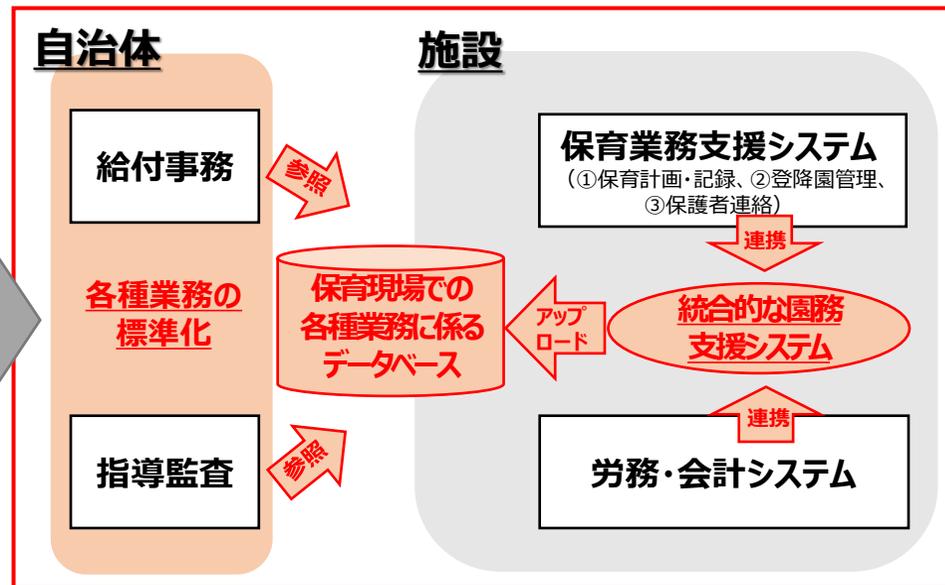
保育現場でのDXの推進について

- 当面は、【フェイズ1】としてICT化推進等事業を拡充し、保育業務にICTを導入する施設を増やす。
- その上で、【フェイズ2】として保育現場でのDXの推進を位置付けて、自治体・ICT関連事業者・保育事業者等の関係者と、こうした将来像を共有しつつ、連携して検討を進めていく。
- こうした取組により、デジタル技術を保育現場に活用することで、保育現場の業務負担を軽減し、こどもに向き合う時間を増やし、保育の質の向上を図る。

【フェイズ1】ICT化推進等事業の拡充



【フェイズ2】保育現場でのDXの推進



- ✓ 数ある業務の中でも、給付に係る請求書や指導監査に係る確認書類について、職員配置状況や賃金支給状況等を参照しつつ必要な情報を取りまとめることの負担が特に大きいと指摘されている。
- ✓ 各種業務の標準化を進めつつ、施設と自治体との間での給付事務や指導監査を含めた各種業務がデジタルで完結する環境を構築することを目指す。
- ✓ 園務支援システムによるデータ連携やオンライン手続を可能とすることにより、書類作成や紙媒体でのやり取り等による事務負担を省力化する。